

令和6年度 学校経営報告〈全日制課程〉

都立北豊島工科高等学校長 荒 繁勝

重点目標	当初の目標数値等	達成数値	成果と課題
<p>中途転退学者の減少 (魅力ある学校生活の構築)</p>	<p>中途転退学者の減少(学校全体で20名以内) ○ 1年生 在籍数の1割以内(9名以内) ○ 2年生 在籍数の3%以内(3名以内) ○ 3年生 全員卒業</p>	<p>◎ 学校全体では20名 ※ 昨年18名 ○ 1年生 10名(うち転学者2名) ※昨年 8名 ○ 2年生 9名(うち転学者3名) ※昨年 5名 ○ 3年生 1名(うち転学者0名) ※昨年 5名</p>	<p>「あきらめない、あきらめさせない」を掲げて6年目。補習補講の充実や丁寧な指導の徹底により、学力不足等で進路変更をする生徒は大幅に減少している。その反面、不登校傾向の生徒が増加し退学者は昨年度比へ増加している。丁寧な指導は継続できているが生活リズムの乱れや学校生活に馴染めず転学ではなく退学をする生徒が増加している。引き続きSCやYSWを活用し学校への興味関心の薄れを無くし通常の生活が送れるようサポートをする。次年度は学校生活を充実させ転退学者の減少に努めていく必要がある。</p>
<p>進路希望の実現 (3年間を見通したキャリア教育の実現)</p>	<p>○ 進路内定 100% ○ 資格取得の推進</p>	<p>◎進路内定 100% ※ 昨年96% ◎資格取得の推進(主なもの) ジュニアマイスター・シルバー 1名 ※昨年3名 ブロンズ 6名 ※昨年7名 電気工事士 1種 7名 ※ 昨年9名 2種 26名 ※ 昨年23名 危険物丙種・乙種4類 28名・15名 ガス溶接・アーク溶接 48名・79名</p>	<p>就職活動は堅調であり求人企業も増加した。卒業することが目的になり将来に向けての進路意識の育成が厳しい生徒は、いない。次年度も進路決定率が100%となるように指導を行っている。 資格指導については徹底した補習補講の成果が出ている。朝学習での取り組みやあきらめない姿勢で取り組んだことが結果として現れた。電気工事士では第二種だけではなく第一種の合格者も7名の合格者を出し安定した指導ができるようになってきた。昨年度から危険物の指導も行うようになり丙種、乙種4類の合格者も出した。またアーク溶接講習も定着してきた。他にも基礎製図やパソコン検定など多くの資格取得にチャレンジし資格に合格した者が多かった。</p>
<p>安心・安全な教育環境</p>	<p>○ 特別指導の減少:昨年度以下 ○ 補習補講の充実:全教員での取組み ○ いじめ・体罰”0”</p>	<p>◎特別指導件数: 7件 ※ 昨年 6件 ◎補習補講の充実: 土曜補習 12回 ※昨年12回 全教員での長期休業中等の補習の実施 放課後等の補習の実施 ◎いじめ・体罰: 「0」</p>	<p>日頃の声掛けや集会での声掛けが効果を表し、教員と生徒間でのコミュニケーションがしかりとれるようになってきた。特別指導件数も少なく学校生活は落ち着いている。生活指導面は生徒に自主的に直させる指導を徹底してきた成果が出てきたが、反面ルーズになってきた面も見られた。次年度はさらに生徒の主体的行動を育成できるように努めていく。生徒会による主体的な活動も目立つようになり朝の正門での挨拶、清掃、学校紹介動画作成なども主体的に行われるようになり定着した。 学習面では各教科での補習補講が行われるようになっておりレポートの未提出、課題の未提出が減少し基礎学力も定着してきた。</p>
<p>広報活動の充実と募集対策</p>	<p>○ 学校説明会等の充実:8回以上 ○ HPの充実:更新回数100回以上 ○ 募集倍率:1.1倍以上</p>	<p>○ 学校説明会(個別相談会):8回 ○ 中学校訪問の充実:延べ85校 ○ HPの更新回数:140回以上 Twitter;120回 ○ 募集倍率(充足率): 67.1%</p>	<p>外部との連携とした合同説明会や学校説明会は予定の回数を実施することができたが応募状況には現れてこなかった。その中で板橋区内からの応募者は増加傾向にあった。Xの発信回数は倍増しPRに努めてきた。近隣の区等へのアピールをさらに強化し工科高校としてのアピールの方法や本校のPRの方法をもう一度練り直す必要がある。 今年度からは「都市防災技術科」の内容をさらに深めた広報活動を実施し、X等のSNSやHPの活用をさらに充実させることができたがさらに次年度も視覚的な面を強化しPR活動を充実させる。</p>
<p>学校経営の改善</p>	<p>○ 朝の時間の有効活用 ○ 企画調整会議の活性化 ○ 教職員のライフワークバランス</p>	<p>○ 1・2年生の朝学習を実施 ○ 委員会の精査 ○ 会議資料や議事録の完全電子化を実施 ○ 時間外勤務時間の減少に取り組む</p>	<p>登校後の30分間を自学の時間と設置し、教科や資格取得に向けた取り組みをさせた。その結果もあり生徒数が昨年度より減少したが資格取得者数は、昨年度と同等数を確保することができた。企画調整会議や職員会議資料、各委員会資料や議事録は、すべて電子化を図りいつでもどこでも見られる情報共有化を実施した。そのため会議時間の短縮化や紙の使用量を削減することができた。 ライフワークバランスを奨めるために時間外勤務の減少を常々伝えている。月80時間超えは大きく減少し、45時間超えも減少してきた。</p>